

日付は現地時間。記事の一部は朝日新聞社の提供です。

月 日(木) 月 日(木)

社会
国際

政治
科学

経済
スポーツ

切り取って保存できる

時事問題や面接、小論文対策に

新型コロナ

Keyword



映画「風と共に去りぬ」の一場面。ハティ・マクダニエル演じる乳母のマミー（右）とピビアン・リー演じるスカーレット・オハラ ©The Granger Collection/amanaimages

Black Lives Matter 映画界にも影響、一時配信停止も 差別を正当化する黒人像に批判

見る側を錯覚させる

米国で白人の警察官が黒人男性を死なせた事件をきっかけに、人種差別に抗議する「Black Lives Matter」運動が世界中に広がりました。その影響は映画界にも。映画「風と共に去りぬ」は、黒人脚本家の批判を受け動画配信ストリーミングサービスで一時配信停止となりました。いったい何が問題だったのでしょうか。（小勝千尋）

「Black Lives Matter(黒人の命は大切)」運動

今年5月、米ミネソタ州で、黒人男性のジョージ・フロイドさん(46)が白人の警察官に路上で首を押さえつけられ、亡くなった。この事件を受けて、黒人への差別反対を訴え、全米に広がった抗議デモ。この動きは2013年ごろから続いている。

デモ行進をする市民 6月19日、米ニューヨーク

©朝日新聞社



「南部の唄」は廃盤になりましたが、米国内のテーマパークには、作品を題材にしたアトラクションがあります。抗議運動を受けて、米ウォルト・ディズニーマーションは今年6月、テーマ変更を発表しました。

一方、「風と共に去りぬ」の配信を停止した動画配信ストリーミングサービス「HBO Max」は、解説動画をつけた上で配信を再開しました。「差別の過去を闇に葬るよりも、何がまずかったのか解説をつけ、自由に見られるようにすべき」と赤尾さん。「奴隷商人の銅像を引き倒す動きなどもあります。偉人とされ銅像が建った過去をなかったことにせず、解説をつけた上で、事実としてとどめておくべきだと思います」

奴隷制度廃止後も、差別は続き、公共の場所が慣習法で白人用と黒人用に分けられたり、白人にとって都合の悪い黒人が攻撃され、殺されたりしました。そうした差別を正当化しようと、映画では「ずるがしこい黒人」「暴力的な黒人」の姿が多く描かれるようになりました。近年の映画作品でも、ステレオタイプな黒人像が散見されるということです。

私たちが知識のないまま、こうした映画を見ると、「黒人とはこういう人たちなのか」「奴隷制度はそれほどひどいものではなかったのか」と誤った認識を持つ可能性もあります。赤尾さんは「映画に出てくる黒人も白人も、等身大に描かれているとは限りません。何らかの意図があって、ステレオタイプとして描くことも多いと理解することが大切」と話します。

度が良い制度であったかのよう

に、映画を見た人を錯覚させるところが問題」と指摘します。

作中には、奴隷としての生活に満足し、白人に尽くすことに喜びを感じている黒人の乳母マミーと奴隷の男性ボークが登場します。「アフリカから人間を拉致して、暴行し、死ぬまで労働させたことや、女性に性奴隷としても扱われたなど、黒人奴隷制度の残酷さについては、少しも触れていません」

「奴隷であることに満足し、白人なしでは生きられない愚かな黒人」像は、「奴隷制度はしかたがないこと」と容認させるため、意図的に描かれたといいます。

黒人男性と白人少年の交流を描くディズニーマーションの唄(1946年公開)も、描かれ方が問題になりました。赤尾さんは「奴隷制度があったときも、なくなつた後も、米南部では黒人と白人が仲良く幸せに暮らしていたかの

ように錯覚させる作品」だと評します。

「南部の唄」は廃盤になりましたが、米国内のテーマパークには、作品を題材にしたアトラクションがあります。抗議運動を受けて、米ウォルト・ディズニーマーションは今年6月、テーマ変更を発表しました。

一方、「風と共に去りぬ」の配信を停止した動画配信ストリーミングサービス「HBO Max」は、解説動画をつけた上で配信を再開しました。「差別の過去を闇に葬るよりも、何がまずかったのか解説をつけ、自由に見られるようにすべき」と赤尾さん。「奴隷商人の銅像を引き倒す動きなどもあります。偉人とされ銅像が建った過去をなかったことにせず、解説をつけた上で、事実としてとどめておくべきだと思います」

奴隷制度廃止後も、差別は続き、公共の場所が慣習法で白人用と黒人用に分けられたり、白人にとって都合の悪い黒人が攻撃され、殺されたりしました。そうした差別を正当化しようと、映画では「ずるがしこい黒人」「暴力的な黒人」の姿が多く描かれるようになりました。近年の映画作品でも、ステレオタイプな黒人像が散見されるということです。

私たちが知識のないまま、こうした映画を見ると、「黒人とはこういう人たちなのか」「奴隷制度はそれほどひどいものではなかったのか」と誤った認識を持つ可能性もあります。赤尾さんは「映画に出てくる黒人も白人も、等身大に描かれているとは限りません。何らかの意図があって、ステレオタイプとして描くことも多いと理解することが大切」と話します。